

日本水道新聞 第5280号 (2017.2.2)より抜粋

乙河内浄水場では、原形復旧として、浄水場付近の破損した取水口や管路（導水管、送水管、電気ケーブル）の応急復旧、ろ過池の土砂撤去およびろ過砂の入れ替えを試みましたが、現行の緩速ろ

過設備では、被災以降に変動した原水水質に対応できず、適正な処理が困難であることが判りました。そこで、原水水質（マンガン、アルミニウム含む）に対応できる災害用浄水ユニット（アクアレスキュー2基、除マンガン装置2基）の設置（リース）により仮復旧し、断水解消に至りました。く